



目標—指導—評価の一体化のための学習評価 小学校総合的な学習の時間のポイント



小学校総合的な学習の時間における単元の学習評価について、単元の目標及び「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成と評価計画と具体的な見取りについて具体的な事例をもとに説明します。



【事例Ⅰ】 評価規準の作成について

【A小学校4年生の例】

単元名：大好き みどり川



学習指導要領には、どの学年で何を指導するかという内容の明示がありません。これは、各学校が、学習指導要領に定める目標の趣旨を踏まえて定めた目標の下で、地域や学校、児童の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが期待されているからです。

【Step1】 学校における総合的な学習の時間の目標を作成する。

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために以下の資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
地域の人、もの、ことにかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けているとともに、地域のよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。

【Step2】 【Step1】で作成した目標を受けた『内容のまとめり』を設定する。

『内容のまとめり』は、**目標を実現するにふさわしい探究課題（「何を学ぶか」）**と、**探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力（「どのようなことができるようになるか」）**の二つによって構成されます。

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
身近な自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解する。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。 環境と生物とが共生していること、自然環境とそこに生息する生物との関係を探的に学習してきたことの成果であることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもつことができる。 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えることができる。 相手や目的に応じて、分かりやすく表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとする。 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとする。 地域との関わりの中で自分のできることを見つけようとする。

[Step3] 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

I で作成した『内容のまとめり』の文末を「～している」「～できる」に変換して作成する。

目標を実現するにふさわしい探究課題	内容のまとめりごとの評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 生物はその周辺の環境と関わって生きていることを理解している。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 環境と生物とが共生していること、自然環境とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、解決の見通しをもっている。 課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分のよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうとしている。 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 地域との関わりの中で自分でできることを見付けようとしている。

[Step4] 『内容のまとめり』をもとに単元の目標を作成する。

<p>〔単元の目標〕</p> <p>みどり川の自然環境に関わったり環境の保全に向けた取組を行ったりすることを通して、多様な生物が周辺の環境と関わって生きていることを理解し、持続可能な視点から自然環境の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。</p>
--

- ※ア 単元において中心となる学習対象や学習活動
 ウ 単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
 ※イ～エは、アとの関わりにおいて作成する。
- イ 単元において重視する「知識及び技能」
 エ 単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

[Step5] **[Step3]**で作成した「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての児童の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

目標と評価の観点では表記が違います。

単元名	単元の評価規準		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大好きみどり川	①みどり川の生物は、互いの特徴を生かし周りの環境と関わって生きていることを理解している。 ②みどり川にすむ生物の状況を捉えるために、生物種や生息環境に応じた方法でフィールドワークを実施している。 ③みどり川の環境と自分たちの生活がつながっていること、川とそこに生息する生物との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①みどり川の環境の変化について、水質調査と踏査活動を結び付けて水質悪化の問題を見付け出し、課題を明らかにしている。 ②みどり川の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。 ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関連付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④みどり川の環境の保全を訴えることについて、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、報告書にまとめている。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②環境保全に向けた探究的な活動体験を通して、自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③環境保全のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。

【事例Ⅱ】指導と評価の計画と具体的な見取り

【B小学校6年生の例】

単元名：多文化共生の一步！～ラップで心の距離を縮めよう～

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>※「知識・技能」の観点については、「①概念的な知識の獲得」、「②自在に活用することが可能な技能の獲得」、「③探究的な学習のよさの理解」の三つに関する評価規準を作成することが考えられます。</p> <p>①地域には、多文化共生プラザ等、外国人を支援する行政機関があることを知るとともに、多様な人が暮らしているまちのよさや、一人一人の存在が守られていることを理解している。</p> <p>②インタビューによる街頭調査を、相手や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③多文化共生に対する自らの認識の高まりは、地域の日本人と外国人をつなげるために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>※「思考・判断・表現」の観点については、「①課題設定」、「②情報の収集」、「③整理・分析」、「④まとめ・表現」の四つに関する評価規準を作成することが考えられます。</p> <p>①課題の解決に向けた計画書の作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。</p> <p>②街頭調査や意見交流会において行う質問について、必要とする情報に応じて質問の内容や方法を決めている。</p> <p>③多文化共生を実現するためのイベントについて、「実現可能か」「意味があるか」「有効か」等の視点を結び付けてイベント開催の根拠を見いだしている。</p> <p>④活動を通して学んだ自らの思い、自己の成長、学びによる自己の変容を生かしてラップで表現している。</p>	<p>※「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視しながら「①自己理解・他者理解」、「②主体性・協働性」、「③将来展望・社会参画」などについて評価規準を作成することが考えられます。</p> <p>①地域に暮らす外国人との意見交流会において、異なる文化や価値観を受け入れ、尊重するとともに、共通性を見いだそうとしている。</p> <p>②異なる文化の共生を目指したイベントの開催に当たって、参加者の状況に応じて対応し、目的意識を明確にして関わろうとしている。</p> <p>③異なる文化の共生を目指したイベントを成功させるために、友達と役割を分担したり、自他の考えのよさを生かしたりしながら問題の解決に向けて協力して取り組んでいる。</p>



指導と評価の計画を立てる

指導と評価の計画（全50時間）

小単元（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 異なる文化を越えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだそう。（14）	・地域の実態から問題点を見だし、解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		①		・計画書
	・グローバルな視点と地域の視点から異なる文化を越えた共生やそこに暮らす人同士の関わりの実態を調べて問題点を見いだす。 具体的事例1「知識・技能①」	①			・意見文
2 地域に住む様々な国の人々との意見交流会を開催し、問題点の解決策を探ろう。（8）	・街頭調査や意見交流会開催の目的や質問項目、情報収集の蓄積方法を明確にする。		②		・情報収集計画シート
	・街頭においてインタビューを行う。 ・地域に暮らす外国人との意見交流会を開催し、問題の原因を探ったり、問題の解決に向けたよりよい方法について考えを交流したりする。	②		①	・ノート ・集計シート ・行動観察 ・取組カード
3 異なる文化を越えた地域の共生に向けて、できることを決定しよう。（8）	・地域の異なる文化を越えた共生や関わりに向けて、今の自分たちができることについて根拠を明らかにし決定する。 具体的事例2「思考・判断・表現③」		③		・作文シート
	・専門家からの評価を通して、提案のよさを自覚するとともに、身近な人をターゲットにするというアドバイスを踏まえ、今後の取り組み方への意識を高める。 具体的事例3「主体的に学習に取り組む態度②」			②	・作文シート

4 魅力的なイベントを協力して準備し、実行しよう。(14)	・魅力的なイベントに向けて、友達と協力して準備し、保護者やこれまでお世話になった外国人や地域の人を招いて開催する。			③	・計画表 ・行動観察 ・作文シート
	・「異なる文化を越えた地域の共生」について、探究的に学習したことによって分かったことを振り返る。	③			・発言 ・作文シート
5 学習活動全体を振り返り、自己の成長や学びの価値、これからの生き方について自らの思いや考えをラップで表現しよう。(6)	・異なる文化を越えた共生についての自らの思い、本音、自己の成長を振り返り、ラップの歌詞や作文に表現する。		④		・ラップの歌詞カード ・作文シート

「どのような姿を見取ることができればいいのか」 評価規準を児童の姿で捉える

知識・技能

具体的事例1「知識・技能①」



A 君

私たちの地域は、最近多くの外国人が住むようになりまし。災害の時に協力できるかどうか不安に思っている人が多くいることをインタビューで知りました。でも、地域には、外国人を支援する多文化共生プラザがあり、外国人の暮らしをサポートしています。いろいろな人がいることが私たちのまちのよさで、それぞれの人が大切にされなければならないと思いました。

～意見文より



A 君は、地域に様々な人が暮らすことは、地域の問題につながると考えていましたが、地域の取組を知ること、まちに暮らす人の多様性こそがまちの魅力につながっていることや、一人一人の外国人の存在が守られていることに気付き始めています。また、多様であることの意味や価値を深く理解し始めている姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができます。

思考・判断・表現

具体的事例2「思考・判断・表現③」



B 君

友達の「有効性に欠ける」という意見を聞いてなるほどと思った。僕は、イベントの中身ばかり考えていて、「こういう場に参加したがる人と呼ぶことが大事」ということについては、まったく意識していなかった。イベントには、大勢の人が参加することが大切だと分かった。友達のおかげで「チラシ作戦」というアイデアを思いついた。

～作文シートより～

B 君は、イベントについて何を実施するのかに集中していましたが、友達の意見を聞きながら、共生を実現しようとするイベントの開催目的が明らかになっていきました。特に「有効か」の視点から参加者数を確保することが重要な要素であることに気付き、開催の根拠としていきました。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができます。



主体的に学習に取り組む態度

具体的事例3「主体的に学習に取り組む態度②」



C 君

地域には、様々な国の外国人が暮らしている。だから、交流会は日本人と外国人という考えではなく私もいろいろな国の中の一人だと考えて取り組みたい。その中で私自身が積極的に関わったら、少しでも多文化共生に近づけるのではないかと思う。

～作文シートより～

C 君は、交流会の開催に向けて、日本人と外国人という限定的な捉えではなく、自分も一人の外国人という意識の広がりや態度の高まりが見て取れます。その中で、自ら行動することを明確にしています。こうした姿から評価規準に示す資質・能力が育成されていると考えることができます。



評価結果の総括と指導計画の改善について

評価結果の総括に当たっては、評価場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な学習の時間の記録」に記述することが考えられます。その際、評価規準にかかわらず教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、児童の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切です。

指導計画については、実際に学習活動を展開する中で、教師が予想しなかった望ましい活動が児童から提案されたり、価値ある学習を生み出す問題場面に遭遇したりする可能性もあります。その場合は、授業計画を修正するなど、柔軟性をもつことが大切です。このように指導計画の評価・改善は、①一単位時間の授業計画、②単元計画、③年間計画、④全体計画の全てを見渡して行うことが求められます。